

平成28年度愛知県学校図書館研究会高等学校部会 名瀬地区第3回研究会<報告>

はじめに

平成28年11月30日
(水)、愛知県図書館
にて、名瀬地区第3回
研究会を開催しまし
た。今回は、愛知県
出身で全国的に活躍
していらっしゃる翻
訳家、土屋京子さん
をお迎えして、講演
をしていただきました。



1 講演会 (14:10～15:30)

演題は「翻訳という仕事」で、図書館業務や英語教育に携わる者にとって、大変興味深い講演でした。内容は大きく3部に分かれ、(1)翻訳家になるまで、(2)翻訳という仕事の実際、(3)わたしの英語学習法、の順に話が進みました。

第1部「翻訳家になるまで」では、土屋京子さんの生い立ちが紹介されました。名古屋市立葵小学校、愛知教育大学附属中学校を卒業し、愛知県立旭丘高等学校へ進学、AFS留学生としてアメリカ南部のテネシー州に1年間滞在したため、高校は4年で卒業されました。その後、東京大学の教養学科でアメリカ地域研究を専攻されますが、文学、政治経済などにも強い関心があったそうです。翻訳家としてデビューした頃は、子育ての傍ら200冊もの原書を読まれました。

第2部「翻訳という仕事の実際」が、今回の講演のメインテーマでした。翻訳作業の前半は、とにかく英文を和文にしていく、言葉のニュアンスを比べるために辞書をひく、などが仕事の大半です。後半は、1回目、2回目、3回目、そして仕上げ、という具合に4段階の推敲を行います。2回目から英文は見ず日本語だけを読み返し、文章のリズムを整えすらすら読めるようにします。この時、黙読していても頭の中では音読しているそうです。3回目はテクニカルな問題、つまり漢字と平仮名のバランス、ルビの添付、登場人物の性格に合った台詞の統一、などの処理をします。常に、「日本語としての分かりやすさ」と「原文の味わい」が対立するので、翻訳する際に、いかに上手く飛躍させられるかが、良い翻訳家になれるかどうかの分かれ目だそうです。実際に土屋さんが訳された、『トム・ソーヤーの冒険』の一節をレジュメに載せて、説得力のある説明をして頂きました。

第3部は「わたしの英語学習法」でした。子供の頃、書道もそろばんも好きになれない娘を見かねたお母さんから「英語でも習ってみたら」と勧められたのが、英語と触れあうきっかけとなりました。小学4年生の頃に、栄のYWCAに通い、これは当時の土屋さんの好みに合ったようで、マザーグースなどは暗記してしまったそうです。実用的な英語力については、中高の英語教育が役に立ったとおっしゃいます。中学1年から3年の教科書は全て暗唱し、テープ（当時の音響カセットテープ）を聞いて繰り返し音読したそうです。高校に入ると、さすがに文章が長くなりリーダーの教科書は覚えられ



なくなりましたが、代わりにグラマーの教科書に出てくる例文を全てまる暗記しました。土屋さんによると、英会話や文法の知識は中学3年間の英語で十分で、その後は語彙を増やしていくだけとのことでした。

講演後の質疑では、「生徒に紙の辞書を使わせるべきか？」という質問が出されました。土屋さんからは、「目的の単語以外の他の箇所も自然に目に入るので、学習者にとっては紙の辞書の方が良いと思う」との回答がありました。装丁やフォントが好きになれそうな物を一冊買わせ、頻繁に使わせると良い、ただし御自身は現在iPadを使用されているとのことでした。

最後に、翻訳ものを図書館に入れる際には、実際に本の中身の文章を読み、翻訳の良いものを採用してほしいと強調され、この言葉には深く考えさせられました。

2 分科会 (15:45～16:45)



分科会では、以下の4会場に分かれ、研究討議が行われました。第1分科会「図書館の充実／選書について」、第2分科会「図書館を利用した活動の充実／季節行事・催事について」、第3分科会「図書館の新しいありかた／図書委員の活用について」、第4分科会「魅力ある図書館に向けて/各校の様子と課題について」(特別支援学校)。

各会場の集約や、アンケートの結果によると、次のようなコメントがありました。「各校の事情がよく分

かり、大変参考になった。」、「本の廃棄の仕方や、図書室の有効利用について、いろいろな意見を聞くことができて良かった。」、「生徒を図書館へ引きつける方法、図書委員をどう積極的に参加させるかなど、各校が努力していることが分かった。」、「予算・人員が減少している今、どのようにしたら、入館者数・貸出冊数の増加に繋げられるのか、この研究会で出てきた意見・資料を参考に今後も研究、努力、実践していくことが重要。」、「校長のブックトーク、本の福袋、クラスTシャツの展示会、読書LT、古本祭…。特色を出して色々な季節行事・催事を催している。そのような中、初めての行事を生

徒と一緒に考え手探りで行ったことが、好評を得て、生徒・担当職員の自信にも繋がっている。」「図書館に足を運ぶ生徒が減少しているため、教室に『クラス出張図書館』を開設している。」などでした。

(第1分科会)



(第2分科会)



(第3分科会)



(第4分科会)



おわりに

今回の研究会で、平成28年度の行事は、全て終了となります。司会や書記などで御協力くださった役員校の方々、会場としてお借りした学校の先生方、および参加者の方々に、改めてお礼を申し上げます。

なお次年度への申し送り事項として、アンケートに寄せられた意見を以下にまとめます。

- ・来年度参加してみたい企画・・・「他校の図書館への訪問」
- ・来年度の分科会で取り上げたいテーマ・・・「除籍について」、「寄贈本（こちらからの依頼なしに送りつけられる本）の扱いについて」
- ・来年度、講演会で聞きたい内容、講師・・・「書店関係者（ネット販売が増える中、紙書籍を扱う苦勞）」、「書籍の編集者、校閲者」、「POP作りのコツ」

以上です。

